

自己評価票

- 自己評価は全部で101項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	23
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	8
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	101

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム どっこんの家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	新潟県胎内市十二天91番地1
記入者名 (管理者)	飛鳥 幸子
記入日	平成20年 4月 28日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)
 (項目5, 7, 8, 9, 14, 15は評価重点項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	パンフレットには、基本理念を載せて作り直している。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	毎月ひだまり保育園からは行事案内やお便りを職員の方が届けてくださり入居者を連れて参加して交流を作っている。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	毎月10日に調味料関係(しょうゆ、砂糖、油、めんつゆ、調理酒、みりん等)注文している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>地域に役立つことがないか検討は行っているが、取り組みはまだ行われていない。</p>	<p>○</p> <p>地域との関係を深めてから、取り組んでいきたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>各職員が自己評価・外部評価の意義を理解し、各自で評価を行い、その後に全職員で改善点の話し合いを行った。外部評価での結果や改善点を受け、より良いケアができるよう取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>明確になった改善点をできることから実行し、より良いサービス提供につなげていきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議の、構成員から意見や要望を頂き、今後のサービスの質の向上に活かしている。外部評価の結果や内容の説明をおこなっている。</p>	<p>○</p> <p>利用者の参加についてはまだ行われていないが参加していく方向で取り組みたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市町村(介護保険係)には利用状況や活動報告を行い連携を密にしながら行っている。地域包括支援センターに相談やアドバイスをもらったり、介護相談員の来訪での意見をケアに取り入れている。</p>	<p>○</p> <p>介護保険係の職員の移動があって新たな関係作りをしながら連携を作っている。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護事業と成年後見制度についての研修に参加しており、会議で職員に伝えて知識を共有している。</p>	
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待についての施設内研修に全職員参加し虐待防止への意識を高めており、体の傷は常に確認し、気にとめるようにしている。</p>	<p>○</p> <p>定期的に内部研修を行って行きたい。(地域包括支援センター職員講師他)今後も定期的に学ぶ機会や話し合う機会を設け、発見や防止に努めて行きたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問や不安がある場合には十分に話し合い、納得してもらってから契約・解約としている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が定期的に訪問され、話を聞いて下さっている。その内容をケアや運営に反映させている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	身体状況に変化がみられた場合やご家族と相談したいことがある場合は、面会時や電話で報告している。健康状態や生活の様子が安定されている方についても、面会時に様子を報告している。	○	事業所独自の広報誌を作成して「どっこん」での様子や過ごし方を伝えていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には家族代表も参加されており、意見を聞くことができる。また、面会時や介護計画見直し時に家族と話すことを心掛けており、意見を聞いている。	○	利用者を入れた運営推進会議を開催したいと思います。まだ行えていません。一度利用者に参加お願いしたが断られ少しずつ雰囲気慣れてもらえるように和室で会議を開催している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議・運営会議で職員からの意見を報告して話し合い、運営に反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	外出や行事への参加等、利用者の要望にそえるように勤務を調整したり、管理者も協力している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	施設の都合で異動になる場合も、併設施設、隣接施設より認知症の介護経験のある職員が異動してきており、異動が決まった日より、時間を見つけて施設に来てもらい、利用者との関わりを持ち、混乱を防いでいる。		
18-2	○マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種マニュアルが整備されているが、職員に周知されているものは少ない。	○	各種マニュアルの説明や配布によって全職員が理解し、周知される必要がある為定期的に勉強会の開催をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	胎内市が開催している研修会にはほぼ毎回参加している。法人内研修への参加は職員にあった研修に計画をたてて、全員参加している。外部研修の案内が来た時に検討しながら向上を目的にし参加している。	○	研修者から職員に研修報告を会議等で発表する場をつくる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム職員と交流する機会を設け、情報交換やネットワーク作りに取り組んでいる。	○	3ヶ月に1回程度、懇親会や勉強会等で交流を図っていきたい。今後は管理者だけでなく職員も参加し、サービスの質の向上を目指したい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同士が相談したり、何でも言い合える関係作りができていると思う。	○	年に数回全職員に個人面談の時間も作り管理者や副主任が意見を聞く場を作って改善できる事は早めの対応をして行きたい。定期的に職場から離れた場所での交流会をおこなっていききたい。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員の実績や勤務状況を把握しており、研修への参加を促す等、向上心を持てるよう働きかけている。また、職員同士でも向上心を高めあっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人と話をする機会を設け、何でも言いやすい関係作りを努めている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	不安に思っていることや、家庭で困っていることをよく聴いて受け止め、解消できるように努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		
26	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	○	調理作業、洗濯作業や掃除など共に行うことで関係づくりを心がけたい。
28	<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	○	家族から何でも言える関係作りをして行きたい。気軽に面会に来れる環境を作りたい。
29	<p>○本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	○	定期的な受診に関しては家族が中心になって連れて行ってもらおう方向で本人と家族のよりよい関係を継続して行きたいと考え継続して行っている。年に1度は家族を呼んで新年会行事を行っている。
30	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	○	併設である小規模多機能型居宅介護事業所の利用者が馴染みの関係の方だったり、近所の方だったりきた時には合わせて連れて行ったり、来てもらったりしてよい関係づくりをしている。
31	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	馴染みの関係になっているので、契約が終了しても、いつでも立ち寄ってくれるよう家族に伝えている。	○	思い出になる物や写真を渡したりしている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	相談時から、その方の暮らし方や今後の生活に対する意向の聴き取りを行い、把握に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居までの生活歴や環境は家族からの情報や日常生活での会話の中から情報を得て、ケアに活かしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日常の生活する様子や会話、表情から総合的に現状を把握できるように関わっている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の記録やアセスメント、家族の意見や意向をもとにカンファレンスを行い、本人本位の介護計画を作成している。介護計画は家族に説明し、同意を得ている。	○	本人本位の介護計画が作成できるよう、本人の希望を多く取り入れていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	期間に応じた見直しを行っている。心身の状態に変化が生じた場合には話し合いを行い、その時の状態に合った計画を作成している。	○	介護計画は利用者ごとに職員が担当制にしてごとに見直しを行ったり現状把握に努め、計画作成者と共に見直しを行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日中と夜間の様子を色別で記入し、分かりやすくしている。介護計画を実施した様子や日々の様子が記録されており、計画の見直しに活かされている。</p>	<p>○</p> <p>細かい情報でも共有できるように、より詳細に記録して、ケアに活かしていきたい。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>様々な要望に応じて、急な外出や隣接施設での催し物への参加に柔軟に対応できている。</p>	<p>○</p> <p>去年から地域にあるグループホームとの交流を目指して交流会を行って利用者、職員含めた交流ができて継続していきたい</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>民生委員の方が様子を見に来て下さることがある。ボランティアは積極的に受け入れており、利用者の楽しみにつながっている。</p>	
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>他施設や事業所へ移行した事例は1件しかないが、隣接施設の事業者から情報をもらったり、市主催の研修会に参加させてもらい、サービス事業者と情報交換をしている。</p>	
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>必要に応じて地域包括支援センターに相談している。</p>	
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族が信頼しているかかりつけ医を優先している。必要時には医師に情報提供したり、受診時に家族と同行し、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>○</p> <p>利用者のかかりつけ医院が往診に来てもらえるルートが出来た事によって職員が安心感がでた。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	5月より医療連携体制加算開始する。主治医との連携や職員へのアドバイス、指導をもらえることで勉強になる。
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	病院関係者との情報交換を密に図り、早期退院に向けて連携していきたい。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	看護が中心となり職員内も連携とりながら重度化した入居者を終末期まで見ていくことが以前より力強くなった。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	かかりつけ医と、チームとしての関係作りに努め、いつでも対応することができるように準備していきたい。緊急時のマニュアルについても看護の方で作成中である。
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの尊厳や誇りを損ねることが無いよう、言葉遣いや対応に気を配っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	その方の理解力に応じて分かりやすい言葉で説明し、選択したり、自分で決められるように支援している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の流れは作っているが、利用者の生活リズムを尊重している。業務内容は利用者の生活のペースを考えて進められ、職員の都合でなく、臨機応変に対応している。	○
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人や家族の希望で、近所の理美容室に出向いている。通い慣れた所で散髪されたり、ご家族が来られ、散髪される方もおられる。化粧品を準備し、女性に楽しんでもらえるようにしている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の嚥下機能や咀嚼力を考慮して調理している。職員は利用者と一緒に食事しており、見守りが必要な方の近くに着くようにしている。調理作業から茶碗拭きまで、利用者と一緒にやっている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の既往歴や現病により飲酒や間食の量に制限がある方が多いが、健康を害さない程度に楽しんでもらっている。喫煙希望のある方には、毎食後と希望時に支援している。	1名喫煙者がいますが、それに対しては以前は職員が同行して下の喫煙場所に行っていたが今は本人の開放感等も考慮して今は食後の喫煙の午前、昼食後にながつては一人行動行っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の記録をしてパターンを把握できるようにしている。その方に合わせて個別で対応し、失敗や汚染を減らしていくように努めている。石鹸を使用しての陰部洗浄を行い、清潔の保持に取り組んでいる。	○ 個別的な排泄パターンを把握し紙パンツから布パンツに切りかえる事が出来たり日中ポータブル使用者がトイレ使用に変わった。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その方の能力に合わせて安全に入浴できるよう支援している。ある程度のことは決めているが、希望があれば入浴したい日に入浴できる。併設事業所も浴室を利用する為、午後のみ入浴となっているが、ゆったり入れるように配慮している。毎月、入浴レクとして、入浴剤やゆずなど季節に合ったお風呂を楽しんで頂いている。	○ 現在夜間の入浴希望や午前入浴希望は無いが、希望があったら入浴できるように話し合っていきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜不安で眠れない方には、オルゴール療法やアロマオイルを使用したり、添い寝をする等の個別対応がされている。夜間の睡眠時間が短い時には昼寝を促し、休息できるよう支援している。	○ 1ヶ月睡眠状態をグラフにしてしょくいんでデータ取ったり、オルゴール、アロマ、を使用することによって気持ちよく眠れるようになった。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの能力と生活歴を活かして、調理作業や掃除等を手伝ってもらい、役割として頂いている。ドライブや買い物で外出する機会を増やし、気晴らしの支援をしている。	○ 偏りが無いよう、全員が気晴らしできるように調整している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの大切さは理解しているが、以前金銭のトラブルもあり、基本的にはホーム側で管理している。	○ 管理はホーム側でも、買い物の支払いは本人にもらう等から検討していきたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気が良い日には、地元のどっこん水を汲みに出掛けている。また、買い物やドライブも日常的に行われている。	○ 年間行事で季節に合わせた行事計画もあり、外食やI：Iの外出をおこなったり(職員：入居者)個別での外出もある。また市町村主催の敬老会にも参加し体育館で皆さんとお弁当食べてきたりしている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の祭りや季節の行事に出掛けている。年1回ではあるが、個別外出レクを取り入れ、利用者一人ひとりの行きたい所へ職員と二人で一日出かける機会を設けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員側からの促しで年賀状と暑中見舞いを出したのみで、それ以外は要望が無い。	
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	居心地良く過ごして頂けるよう、環境や雰囲気配慮している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の施設内研修に参加し、ケアを行う際は、拘束となっていないかを常に考えている。	○ 身体拘束の具体的な内容2回にわたって研修が行えた。今後も定期的に行って行きたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員が理解しており、玄関や居室の鍵は日中開いている。ホームが2階である為、階段の扉は安全の為に常に施錠しており、家族に説明している。(利用者の中には、他者が入る事を嫌い、自ら鍵をかけている方が、1名います。)	○ 階段の扉の鍵は安全第一に考えていまだに開錠にしている。検討中です。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員が食堂や和室で一緒に過ごしなが、利用者の所在が分かるようにしている。台所が対面式であり、調理しながら見渡せるようになっている。エレベーター前も見えるように工夫している。夜間は巡視を行い、状態の観察を行っている。	
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	普段は包丁や洗剤類の危険物は特に隠しておらず、家庭のようにあるべき場所に置いてある。利用者の状態によって、危険物を見えにくい場所に置き、危険なことが無いよう取り組んでいる。	○ 家庭らしさを失わないことを前提として、利用者のレベルや状態に合わせて、危険が無いように対応していきたい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハット報告書の内容やリスクを挙げて、事故を防ぐ対応策について、随時話し合っている。	○ 再検討はしたが職員の中ではこのままの書式、記録の書き方も継続方向でいます。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	開設前に全職員で救急法の講習を受けたが、定期的な訓練は現在行っていない。	○ 定期的な訓練や勉強会を行い、急変時や事故発生時に備えていきたい。看護師に勉強会等依頼して取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立会いのもと避難訓練は行っているが、非常階段を利用しての避難に不安がある。また、地域の方々の協力を得られるような働きかけはまだ行っていない。	○ 日常生活において非常階段を利用する機会を増やし、災害時に備えたい。今年度の避難訓練には地域の方の参加で一度行う方向で予定しています。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	カンファレンスや毎月のケア会議の際に、現状態から考えられるリスクについて検討し、未然に防ぐ対応策について話し合っている。	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定や観察で心身の状態に変化がみられた場合は、看護師を含めた職員間で情報を共有し、家族に連絡している。必要時には受診をお願いしている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の現病や内服薬の効能を把握しており、飲み忘れや間違いがないようにセットし、記録もしている。薬が変更した場合は、特に注意して状態観察を行い、担当医に報告している。新しい薬が処方された場合、看護師より薬の効果や、副作用について指導を受けている。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘時や予防として、牛乳、ココア、プーアール茶等の、個々に効果のある飲食物を摂取して頂いている。普段から水分摂取に心掛け、毎日体操を行うことで身体を動かすよう取り組んでいる。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	協力医療機関の歯科医から口腔内の定期検診を受けたり、職員へのアドバイスをもらっている。毎食後の歯磨きと、口臭予防・殺菌を目的とした緑茶うがいを毎食後行っている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	○	<p>栄養士から、定期的に献立の確認や指導を受け、バランスの良い食事の提供に努めていきたい。</p>
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>	○	<p>感染対策委員を立ち上げ、毎月予防や対策について話し合っている。</p>
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	○	<p>食材は献立表に合わせた食材等を週に2回買い物を行っている。旬の野菜は地域の農家の方から週に2回配達して頂いています。</p>
(1)居心地のよい環境づくり			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	<p>トイレや居室入り口の目印についてはなくても場所間違いは今の所はなく過ごされています。検討しましたがこのまま継続。</p>
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		<p>和室や食堂には皆で座れるようにソファを設置し、思い思いに過ごせるようにしている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	○	居室内もう少し家での生活環境に近い空間を作りたいと思いい家族にもお願いしたりして取り組んでいます。
84	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	○	この冬に加湿器全居室やホールに設置した。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	○	玄関近くの中庭にテーブルとベンチ設置したことで気分転換、外気欲や外での昼食ができています。

V. サービスの成果に関する項目			
項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

ホーム名の由来となっている地元の「どっこん水」を、冬季以外ほぼ毎日利用者と汲みに出掛けている。
 お茶や料理は「どっこん水」を利用している。
 調理は利用者と一緒にいき、皿洗いと皿拭きは利用者が主体となって行っている。
 近隣のグループホームさんと、利用者を含め交流会を行っています。
 (共に過ごす)事を理念に、常に利用者や家族の様に寄り添い生活しています。